観覧料改定のお知らせ

2019年6月6日(木)より、本館展示観覧料を左記のとおり改定いたします。なお、特別展観覧料はその都度、別に定めます。何卒、お願い申し上げます。

◆2019年6月4日(火)まで

一般	高校・大学生	中学生以下
420円	250円	無料

◆2019年6月6日(木)から

一般	大学生	高校生以下
580円	250円	無料

各種割引等につきましては、みんぱくホームページをご覧ください。

特別展
「驚異と怪異――想像界の生きものたち」

なぜ人類は、この世のキワにいるかもしれない不思議な生きものを思い描き、形にしてきたのか？ 奇妙で怪しい、不気味だけどかわいい、世界の霊獣・幻獣・怪獣が大集合！ 現代のアーティスト：漫画家・ゲームデザイナーたちによるクリーチャー制作も紹介し、妖怪やモンスターの源泉にある想像と創造の力を探ります。

会期　8月29日(木)～11月26日(火)
会場　特別展示場

海の死霊
トビウオ漁用釣り具
(ソロモン諸島)

企画展
「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年――「みられる私」より「みる私」」

片倉もとこ(本館 名誉教授)が半世紀前に撮影した写真を手がかりに、色鮮やかな物質文化からサウジ女性の生活世界の変遷をたどります。

会期　6月6日(木)～9月10日(火)
会場　本館企画展示場

花飾りのついたクフル（顔料）容器

第17回 音楽の祭日2019 in みんぱく

1982年にフランスで、夏至の日にみんなで音楽を楽しむ「音楽の祭典」がはじまりました。みんぱくでも、世界のさまざまな楽器を使って「音楽の祭日」を祝います。

日時　6月23日(日)10時15分～16時35分(10時開場)
会場　特別展示館、本館エントランスホール
※申込不要、参加無料(展示をご覧になる方は、展示観覧券が必要です。)

夏休みこどもワークショップ
「フィールドワークに挑戦！――マイナス40度の世界に生きる人びとのくらし」

夏休みの自由研究はみんぱくでチャレンジ！みんぱくで1日研究者になって「フィールドワーク」を体験してみましょう。

日時　7月28日(日)10時30分～16時(10時20分集合)

©2016 NORDISK FILM PRODUCTION

みんぱく映画会・第45回ワールドシネマ
「サーミの血」

独自の言語と文化を持つサーミ人の少女が、国の分離政策によって差別的な扱いを受け、自らのルーツと葛藤しながら成長し生きる姿をとおして、民族のアイデンティティについて考えたいと思います。

日時　6月16日(日)13時30分～16時30分(13時開場)
会場　特別展示館(定員350名)
※申込不要、要展示観覧券
※参加券を当日11時から特別展示館入口にて配布

お問い合わせ先
企画課「音楽の祭日」担当
電話　06・6878・8210
(土日祝を除く9時～16時)

点字体験ワークショップ

目で読む文字から手で読む文字へ、点字で異文化コミュニケーション！ 点字体験ワークショップを開催します。

日時　6月8日(土)12時～15時30分
会場　本館エントランスホール
※申込不要、参加無料
※みんぱくミュージアムパートナーズ(MMP)による催しです。

講師　大石侑香(本館 特任助教)
会場　本館展示場、第3セミナー室
対象　小学4年生～6年生
※要事前申込(先着順／定員12名)
参加費500円
※7月3日(水)応募受付開始

国立民族学博物館・国立科学博物館 共同企画展
「ビーズ――自然をつなぐ、世界をつなぐ」

会期　6月16日(日)まで
会場　国立科学博物館 日本館1階 企画展示室(東京・上野)
休館日　月曜日
[ただし、6月10日(月)は開館]
主催　国立科学博物館
国立民族学博物館

※各イベントについてくわしくはみんぱくホームページをご覧ください。
※電話でのお問い合わせの受付時間は、9時～17時(土日祝を除く)です。

お問い合わせ(本館 広報係)
電話　06-6878-8560／FAX　06-6875-0401
http://www.minpaku.ac.jp/

みんぱくゼミナール

日時　6月15日(土)
13時30分～15時
(13時開場)
会場　特別展示館
※参加無料、申込不要、定員200名
※参加券の配布なし

第492回
物質文化から見た沙漠社会――アラビア半島オアシスの半世紀

講師　西尾哲夫(本館 教授)
縄田浩志(本館 特別客員教授、秋田大学 教授)
遠藤仁(現代中東地域研究 秋田大学拠点研究員)

アラビア半島の「水と緑に恵まれた地」を舞台に、およそ半世紀前に撮影された写真と人文地理学的・文化人類学的記述をてがかりに、物質文化の特質と生活世界の持続と変容について考えます。

ブリキ缶を頭に乗せ井戸へ水くみに向かう女性

みんぱくウィークエンド・サロン
研究者と話そう

本館の研究者が「現在取り組んでいる研究」「調査している地域（国）の最新情報」「みんぱくの展示資料」について分かりやすくお話しします。

6月9日(日)14時30分～15時30分
本館企画展示場、ナビひろば

「みられる私」から「みる私」への変身――ベールの内からみる世界へ

話者　西尾哲夫(本館 教授)
縄田浩志(本館 特別客員教授、秋田大学 教授)

6月30日(日)14時30分～15時15分
本館展示場(東アジア展示場・中国地域の文化)

中国文化の中の「動物」たち

話者　韓敏(本館 教授)

7月14日(日)14時30分～15時　本館ナビひろば

「サウジ版江南スタイル」にみるハラールな若者文化

話者　相島葉月(本館 准教授)

※申込不要、参加無料(要展示観覧券)

刊行物紹介

■韓 敏 編
『家族・民族・国家――東アジアの人類学的アプローチ』
風響社　5,000円(税別)

21世紀の中国研究に新たな視座を提示。ダイナミックな転換期に立ちつづける中国。本書は、家族のディスコースとその実態、「民族」構築の理論的系譜、国家・社会関係のパラダイムという3方向からその動態を見据え、新たな分析枠組みを提示。日・中・韓・米、台湾、香港の人類学者による民博共同研究の成果。

■長谷川 清、河合 洋尚 編
『資源化される「歴史」――中国南部諸民族の分析から』
風響社　5,000円(税別)

歴史や文化はどう消費されるのか。ヒトや集団の文化実践によって紡ぎ出された「歴史」は、市場経済や政治権力によって加工され、より大きな文脈として再配置されていく。本書は、現場の視点からそのさまざまな水流を汲み取り、全体としての動態を見極めようとする試みである。民博共同研究の成果。

■杉本 良男、松尾 瑞穂 編
『聖地のポリティクス――ユーラシア地域大国の比較から』
風響社　5,000円(税別)

聖地はいつも「満員御礼」。聖地を成り立たせているものは何なのか。「聖性」の議論を超え、本書では、インド、中国、ロシアそれぞれの聖地について、その物語性や観光化、宗教や国家イデオロギーの介入、「再」聖地化といった現代の諸相に切り込む。人々にとって聖地とは何かを考究する、民博共同研究の成果。

国立民族学博物館友の会　電話 06-6877-8893（9時～17時、土日祝を除く） FAX 06-6878-3716
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/　E-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会

友の会講演会

会場　本館第5セミナー室(当日先着順・定員96名)
※会員無料(会員証提示)、一般500円

第490回　7月6日(土)13時30分～14時40分
【企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年――「みられる私」より「みる私」」関連】
サウジアラビア女性の日常世界のいま・むかし
講師　郡司みさお(片倉もとこ記念沙漠文化財団 理事)
藤本悠子(片倉もとこ記念沙漠文化財団事務局主事)

イスラームの聖地マッカ(メッカ)の近郊に位置するワディ・ファーティマは、「水と緑に恵まれた」オアシスでした。交易路沿いの都市遺跡がみられ、多様な人びとが出会い、豊かな文化が育まれた場所です。1960年代末以降、社会全体が急激な変化をむかえたなかで、文化人類学者の片倉もとこが出会った女性たちはどのような日々をおくってきたのでしょうか？ 片倉の撮影写真と最新の調査成果と共に、サウジアラビア女性の50年の生活変化をたどります。

※講演会終了後、解説付きで企画展の見学会をおこないます(40分)。
【解説　縄田浩志(本館 特別客員教授、秋田大学 教授)】
※見学会にご参加の方は会員証もしくは展示観覧券が必要です。

東京講演会

会場　モンベル御徒町店4Fサロン(定員60名)
※会員無料(会員証提示)、一般500円

第126回　7月13日(土)13時30分～14時40分
【みんぱく名誉教授シリーズ】
チワン(壮)族の文化の資源化の現状
講師　塚田誠之(本館 名誉教授)

チワン(壮)族は、中国の55の少数民族のうち最大の人口を有し、その多くが中国南部の広西壮族自治区に居住しています。歴史的に漢文化の影響を受容してきましたが、歌掛けやモチ米食品への嗜好性など独自性をも保持してきました。1990年代以降、中国の経済発展にともない、かつて男女の歌掛けの際に用いられた「繍球」が商品化され、高床式住居が観光資源として活用されるなどの変化が見られます。本講演では、こうした事例をつうじて文化の資源化について考えます。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。
※要事前申込、先着順